13. ASEP2016 現地レポート(2016/12/24～12/28)

i【12 月 24 日(土) 日本から高雄へ】1日目

クリスマスの3連休の中日のクリスマスイブの土曜日の早朝の関西空港は思いのほか混雑もなく、それでも海外旅行への家族連れやアジア諸国へ帰国の人々が行きかっていた。

こんばんは。今年もクリスマスと共にこの季節がやってきました。

例年に比べて今年はカレンダーの日取りが良く、公立の学校も23日から冬休みとあって、早い学校はなるべく長い交流日程を目指して22日から台湾入り。

私は例年通り、南山国際高校のグループに台北から同行という事で、賑わいの関空より一人での搭乗。

予想とおり10時発のチャイナエア台北便はほぼ満席で定刻通りの出発。グループや家族連れの日本人の多い中、今年目立ったのはフィリピン人が多い事。どうも台北トランジットでの帰国らしい。空港は生の人な流れから色々なことが想定され、いつも国際のヒントをくれる場所。

フライトは3時間弱の道のりでエコノミーでもストレスのない範囲で着陸体制へのアナウンスで晴れてはいるが強風の台北・桃園空港に到着。

とりあえず、パスポートコントロールへ急ぐ。急ぐ理由は大陸の便との同着になると通過に大いに時間がかかるため。でも、予想通り。列を乱して、ラインテープをかいくぐって先入りは当たり前。それでも台湾入国管理職員の機転で空いている台湾人用の窓口へ誘導してくれて予想より短時間で通過できて一安心。
ほぼ同着の中部国際空港から南山国際の乗った便の荷物受取で西先生と生徒さんを待つ。

しばし待つと、子どもを抱いた西先生を先頭に南山国際高グループがやってきた。そうです。今年は西先生は子さんと奥さんも一緒での参加。
なぜ、クリスマスに毎年家にいないかの体験をしてもらうため？
あるいは台湾先生とお子さんを連れてくる念願の約束をしていたため？

無事、通関も終えて高雄に向かうために台湾高鐵＝新幹線の桃園駅へとシャトルバスにのり到着。

高鐵桃園駅の前には昨年は建設中だった立派なMRT の桃園駅が既に出来上がっている。直接桃園空港から台北まで今までのバスの半分の30分くらいで台北へ渋滞なしで接続できるのだが、台湾のお約束通り、6月開通が12月にのびそしてまた3月にのびているよう。来年は利用できるかな。

そして、土曜日にしてはこれもまたそれほど混んでない新幹線で一路高雄へ。車内はほぼ日本の新幹線なので全然違和感がなく、それでも車窓を流れる風景はどことなく椰子の木交じりや特長的な墓地を後ろに押しやりながら、嘉儀の北回帰線を超える頃にはどことなく南国の風景の中を300km近くの速さでもっと早く後ろに押しやり、夕暮れの高雄・左榮駅へと到着。

改札の外では南山国際の相手校である樹徳家商の生徒たちが歓迎のプラカードを持って待っている。

私はグループのしんがりを務めていたが1人男子学生が改札の手前でたちどまる。

聞いてみると予想通り切符が見当たらないようでジャケットの外ポケットからバッグから探りまくっている。相当焦っている。

もう一度落ちつて、なかのシャツのポケットとか入ってない？と声を掛けるとはっと気付いたように首にかけた貴重品ホルダーを引き上げて、無事中からチケットが見つかった。

やはり緊張しているのだとなんとなくほほえましい。私に何度も何度もお礼を言う思い通りの素直な生徒さんだ。

にぎやかな集合写真も終えて、生徒達はそれぞれのホストファミリーに引き取られ、今年の送迎はあのウー先生ではなくトニー先生が学校からバンを借りているというので西先生ファミリーと同乗してホテルまで。

これはホテルまでスムーズに到着できる、と思っていたら結局高速の出口を間違えて大回りしかつ渋滞に引っかかって、ホテルへのチェックインを後回しにして夕食のトニー先生のお父さんの経営している客家レストラン、我々の通称「トニーの店」へ直行。

台湾が初めての西先生の奥様も、お子さんも「おいしい」を連発して楽しんでおられた。
　樹徳の英語先生アランも双子のお子さん連れで参加し、和やかな初日の夕食は胃も心も満足でホテルへチェックイン。

そして遅めのバーヨウコウが本格開店。

今年のバーヨウコウはソファではなく、板の間の少し韓国風、でも部屋の名は日本スタイルの板の間のスウィートで開店。とりあえず板の間で座れるので意外と好評。

　もういちいち開店の連絡をしなくてもあらかじめ先入りの林先生よりのML告知で三々五々に各先生がお集まり。
　1年振り、8月のWYMぶりの挨拶を交わしながら、大学の先生から高校の先生がざっくばらんの会話があふれる。
　インターネットもないパソコン通信時代から、インターネットの100校プロジェクトの話から、英語とICTの話、プレゼンの話、などなど。リアルの話、いい意味でのアンフォーマルな話題はその場にいなければ得られない貴重な情報。
　参加してくれた米国ネイティブ先生から高校時代でどういう状況で教科外の社会的課題など話し合いをしていたか、ディベートに係る話題などなど。興味尽きないうちに夜は更けて。

　さて、あすは教員ワークショップ、公式歓迎会と公式行事。そしてASEPプレゼン大会へとなだれ込んでいく。
今年のテーマは「Pop culture and life」。
今年も生徒達は結論に悩むだろうけど、失敗も含めてそれを経験したことにより得たものの大きさを体験できる幸せに気づくように、楽しみにASEPが始まった。

ii【12 月 25 日（日） 公式行事・ワークショップ/歓迎会】2日目

　それは日本でなら6月の梅雨入り前のひと時のような爽やかな青空の広がった朝の高雄からおはようございます。市村です。
ASEP2日目は公式行事の午後よりの教員ワークショップと公式歓迎会。

無論生徒・学生たちはそれぞれのホームステイ滞在をしつつ、プレゼンの仕上げに励んでいるが、日本参加の先生がたは同じホテルに宿泊しているので朝食会場はもちろん、早くからプレゼン相手校の先生方のピックアップのためロビーでも顔を会わせる。

私は、池田先生と林先生と共に来年のWYMとASEP幹事校である三民家商高校へ来年の打合せに同行。

生徒がまだ今年の仕上げをしている最中の1年前から早くも翌年が動いている。三民は明るい光に包まれて、生徒達の姿が見えないのが今日は日曜日であることを気付かせる。

ご覧のように高雄市立学校であれ休日の三民は隣接するショッピングセンターの臨時駐車場として「サイドビジネス」をしているようで、日本では考えられるのでしょうか。

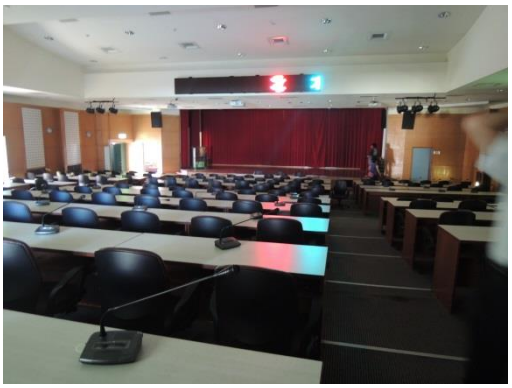
学務主任のフゥー先生、本年の WYM に引率で来られた英語科のソフィア先生、そして今回の担当の課外活動係チーフのエレン先生先生が休日にもかかわらず参加していただく。エレン先生はさすが実業高校の三民、専攻は観光との事。

日本側交流校で生徒のプレゼン進行状況を見守るために来ている法隆寺国際高校の山本先生も同席で1年先のASEPの日本側希望日程から池田先生が提案していく。

当然、ASEP は日本を含むインドネシア、マレーシア、韓国などアジア各国の生徒のプロジェクトだが、昨年や本年の日本の参加実績が教員併せて150人超と最大参加国であるので、我々日本の希望スケジュールを基に組み上げていく。

来年は12月25日より冬休みの公算が大につき、12月28日の第一希望を伝える。

その他、ホテルの希望やワークショップや公式記者会見など公式行事の日程、と手際よく池田先生が伝えていく。台湾側は主催の教育委員会の意向で市内の高校に広く幹事校を任せたいために毎年変わっていく。その都度都度でオーガナイズ未経験の学校担当者に対してこうして一から説明指導していくのは相当手間のかかる作業ではあるが、日本側窓口として、各校が交流活動に勤しんでいる裏で、こうして池田先生は影の汗を流しておられる。(ので最近スリムになられたのでしょうか？一部では草食になったため、とのうわさが・・・)。



こうしてASEPの来年の開催希望を伝えると今度は来年8月のWYMについての打合せ。WYMについては台湾側が最大の参加者数60名を送り込むので、候補日の8月3日、4日を伝えて凡そのタイムラインを知らせる。その動きで台湾側は7月末来日の9～10日間滞在。できれば早めに航空券を押さえるように依頼。

というように、半年・1年先の「リアルミーティング」の活動がどん、とどん計画されていく。
この先生方の影の努力が一過性でなく継続的な17年も続くWYMとASEPという「いわゆる国際交流プロジェクト」を
支える理由の一つであるのは間違いない。

仕上げは来年ASEPで使用予定の会場の下見。あの初期ASEPで使用した旧講堂と噂ではその当時とその後のASEP等の国際交流活動の教育実績で市の加重予算がついて増築された新棟の講堂を見学。マルチプロジェクタやそれぞれの席に会議マイクユニットが設置された豪華な設備。

午後からは最初の公式行事である教員ワークショップが会場校の明誠高（セントポール）で開催。プレゼン発表の評価基準と各賞、ジャッジの選定の内容をセントポールで考えた案を話し合う。司会のウォルター先生は何かと「17年続けてきた・・・」という枕言葉で何かと影戸先生のアドバイスを求めてくる。17年は別にして多年参加は日本人教員の多くで、他国の教員は ASEP 初体験者ばかり。ただし、台湾側はセントポールも複数年経験があるのだが。

大所はセントポール案で了承されたが、影戸先生より例年ASEPを見て唯一気にかけておられる、発表を聞く一部オーディエンスの態度を是非評価したいと提案された。実は、当然日本参加者学生ではないが、自分たちの発表が終われば後は関係ない、とばかりに会場を抜け出してぶらぶらしたり、おしゃべり、ネット、居眠りなど自分たちだけが良ければ、という凡そ発表者に対する敬意や真摯な態度のない参加国生徒が少なからず見かけられる事だ。

それはその時の発表者の評価に関係してくるか、との言外否定的な質問はある国の先生から発せられたが、一番可能性のある国で、ひょっとして自分たちの態度をわかっているのかな？と言う話題がその晩のバーヨウコウで語られたのは楽屋ネタ。

初参加の教員も多いASEPで今回のように評価基準をジャッジだけでなく各教員にクライテリアも含めて合意形成するのは初めての試みでその点では一歩前進というところか。 さて、ジャッジは2会場、の会場で並行して開催でそれぞれ5人のジャッジが決められる。

なるべく、参加校の会場でなく他会場でという事で高校中心の A 会場では結局吉田先生、林先生、私と日本側3人とインドの先生とインドネシアの先生がジャッジとあいなりました。

結構、私情を挟む傾向にあるようなのか、文句を言われるのを恐れたのか、台湾側もジャッジを出せばよいのに結局1人も選出しない「奥ゆかしさ」。これも幹事校の配慮でしょうか。事後に特に地元校の校長等からなぜうちは〇〇賞を取れなかったのか、採点はどうなっているのか、などジャッジについてのクレームや問い合わせなどもあるという話を耳に挟むので、今回はほぼ全校にプラチナ賞のみなどの段取りを考慮しても地元のジャッジを入れない理由は推し量られる。

そうこうしてるうちにワークショップも終了し、公式歓迎会の会場の蓮潭会館へとバスで移動。8年前に会場と宿泊場所となった懐かしい所。おりしも日曜日でお日柄もよいのか別会場では結婚式の披露宴のまっさかり。

公式歓迎会はホストの高雄市教育局局長、各国代表の挨拶、高雄市参加各校の校長や関係者を交えて参加証の盾の授与を中心にテーブルを囲んで挨拶が交わされる。

主賓席の局長席では58度の高粱酒での乾杯が繰り返されたようで、餌食になった宮下先生は本場大陸仕込でもホテルに着くころはバーヨウコウに顔を出す元気もなくなっておられたよう。

という事で、バーヨウコウは今晩も10時過ぎに開店。途中参加で今夜到着した服部が台湾税関の目をかいくぐって持ち込んだ「竹鶴」と服部の元駐在先の香港での英国人英語教師お勧めの本

場スコッチやいつもの台湾ビールが加わって2回目参加の服部の海外勤務体験、勤務経験地香港と台湾の同じ中国語圏でもキャラクターの違いなど、国際的なまさに国際交流にふさわしい内容を美味しい酒で流し込みながら、夜は更けてゆき。

実は、私も含めてバーヨウコウに来られた大部分の先生に確認したのですが、免税で台湾持込み可能なアルコール飲料は 750ml まで、と行きのチャイナエアの中で確認しました。

10年以上この制限に気づいていませんでした。

明日は公式記者会見とそのあとは各校が会場でのリハーサル。
そして27日の本番を迎えていよいよ泣きが入ってきたグループもありそうで、スライド作り直しとか、先生方も山場を迎えた時期となり、日付を超えて今夜も終了。
では、またあした。

iii【12月26日（月） 公式記者会見と歓迎会】3日目

今日は公式行事2日目の公式記者会見。
ここ何年かで最も良い天気の部類の高雄らしい良い天気の朝を迎えています。市村です。

ホテルから一本道で歩いて十数分の距離で快晴の午前の爽やかさにつられてか、多くの先生が徒歩で歩いて向かわれました。

セントポール高校の校門には日本とは違って学生の交通整理当番係のような担当があるらしく、
制服を着て交通整理。そして玄関ホールを抜けて会場にむかう道々には白手袋をした案内係の
生徒がにこやかにあいさつして案内をしてくれる。

会場には既に VIP を始め多くの出席者がすでに会場にアテンドされている。
どうも早くから教育局局長は会場入りしてスピーチのリハーサルをしておられたらしい。
そして影戸先生の会場入りを今か今かと首を長くして待たれていたようで、
「影戸先生はまだか、まだか」と焦っておられた、とはたまたま早や入りしていた東高校の
西山先生の目撃談。

そうこうして、公式記者会見のスタート。
まずのオープニングはキリスト教の学校らしく先ごろ亡くなったレナード・コーエンのハレルヤを
4人アカペラで。まさにキリスト教の学校らしさにしみじみと浸る。

次の出し物はがらりと変わって、あの三民家商のファッションショウならず、ダンスチーム。

多分日本の高校では公式学校行事ではほぼ絶対に実施されないであろうへそ出しのホットパンツ姿の女子チームが腰を捻りながらのヒップホップダンス。しかもこれを教育局局長の目の前で。局長も喜んで大きな拍手。

まぁ、日本の学校では許可されないだろうな、と思いつつこれが台湾基準。

高雄市政府教育局　范局長の開会スピーチは昨日の歓迎会の高粱酒のエピソードもアドリブで盛り込み、引き続き幹事校セントポールの校長の見事な英語スピーチに引き続き、影戸先生のこれもまたお馴染みの流暢な中国語をはさんだゲストスピーチ。

そして、各国代表の学生・生徒がその国を代表する衣装でステージに。

そして今回のテーマ「Pop culture and life」のキーとなるカードを何かのボックスに入れたらタイトルがポップアップする仕掛けの割にちょっとがっかりののギミックを経て記念撮影。

TV取材も入っていて局長や学生にインタビューをしている。高雄市の力の入れようが良くわかる。

その後食事へと移るのだが、ちょっとしたアクシデント。プロフェッショナル顔負けの ASEP 日本側公式カメラマンの林先生がその精力的な撮影の最中、会場通路階段に躓いて転倒、足首上の筋を捻ったようで足を引きずっておられた。

それを見たセントポールが保健室で取り急ぎの応急処置を薦める。

その際、英語のできる生徒がアシスタントとして林先生のそばに付き荷物も持って案内。保健室の先生の判断ではいたみはあるものの捻挫ほどではないような判断でテーピング。

大事を取ってホテルへタクシーで戻るのに件の男子学生は林先生の荷物を持ちながら、近くのセブンイレブンでタクシーを呼びかつ運転手にホテルの住所までで丁寧に教えて送り出された、と聞いた。確かにセブンの外の椅子に林先生を座らせて自分は傍らに立ちじっとタクシーを待つ姿を見かけたが、こういう生徒がいる学校がセントポールなのだろう。

午後の時間をかいくぐってと言うかほぼ唯一のチャンスなので影戸先生、吉田先生、上杉先生と乾物を購入しに三鳳中街へ。相変わらずの安さで、台湾特産黒皮落花生やお茶、干しエビ、カラスミを購入してホテルへと戻る。

夕食はそれぞれの交流相手校に誘われて出かけられる多くの先生をロビーで見送りながら、服部と一緒に影戸先生と日本福祉大学生に加えて交流相手の中山大学生と近所の客家料理のレストランへ。学生たちはいわゆる学生ジャンクフードを主食にしていたようで出される客家料理をおいしいを連発して食していた。

日福大の学生と中山大の学生どちらか見分けがつかぬほど上手に英語を使って自由に楽しそうにコミュニケーションを取っている姿を見ると、影戸先生のご指導の下、本当の大学生のグローバル力はどこにあるのかが目の当たりにできるまたとない機会になった。

そんな訳でバーヨウコウはいつもより少し早く開店で、本日はビールにまして貴重ウィスキーの消費が多いほど複数の話題で盛り上がる活気のあるスペースに。

日頃の指導の悩みや蹉跌が案外一緒であったり、新しい展開が見えたりされてるようで、結局教員も生徒と同じように人としてのコミュニケーション、人と繋がり係ることによって生きて生かされているという事を認識されたよう。

WYM は経験したが ASEP 初参加の先生はこの「あらかじめ用意された」、生徒にとってスリルのあるステージをどのように演出させて生きてゆく、勉強してゆくという生徒の踊ってゆく「舞台」が用意されていることにきづかれたようで、それはまたその経験を通じて教師としても成長し「生きてゆく」よりどころとなったようで、ここにバーヨウコウの冥利があると思う。

そして明日はプレゼン発表。よくも悪くも、体験できたことを他人事ではなく自分の事として語れる生徒がいかに多く現れるのかを楽しみに、みなさま三々五々に解散。
では今夜はこのあたりで。

ⅳ【12月27日（火） プレゼン大会】4日目

4日目にして風が強く多少気温の低い、曇りの高雄の朝を迎えて今日はいよいよプレゼン発表の日。市村です。

ホテルを8時20分に出発するはずの教員用バスが結局来たのは40分過ぎ。
ASEP 当初の台湾時間を思い出す。

既に高雄教育局局長の挨拶が終わり、あわてて席に駆け込む。
高雄女子を退職されてゾンタという国際的奉仕活動団体に軸足を置かれたシルビア先生と三民、高雄高、高雄女子と確実にASEPを通じて教育実績を残されている黄校長へ束の間の挨拶。思えばもう17年のお付き合い。

セントポールの校長に続き影戸先生はお馴染みの中国語のスローガンを交えて受けを取る。
今年は PPAP のアクションをもじって「プレゼンター」と「オーディアンス」の関係での聞き手の態度への喚起も加えられ、プレゼンで PAPP を使おうとしているチームはどきっとしたのでは？

会場は新しくできた講堂で 1000 人近くの参加者であふれている。
一通りの挨拶のあとは全体写真とアナウンスがあるが、こちらを見てください、と再度アナウンスがあるとドローンがどこからともなく飛び出して、ステージから参加者の上からと飛び回る。静止が安定していて非常に熟練した操作。
「後ろに座っている日本参加の生徒があれはプロだ、と言っていた。

さて、吉田先生、林先生と私は普通科高校生のジャッジの役割で会場移動。
朝から19本のプレゼンテーションを評価する。
採点は「内容＆構成」、「表現」、「マルチメディアデザイン」、「チームワーク」、「創造性」のそれぞれ20％の比率の領域5人で合計100点で審査をしていく。

賞は総合点の順位ではなく各領域での得点順位での賞を出す。
あらためて今回のテーマは「Pop Culture and Life」。

予想に反してドラマ仕立ての進行のプレゼンが多い。確かになじみやすいがはたしてこれはプレゼンテーションのコンテストかドラマコンテストなのか、次から次へと同様で採点をしながら頭を抱えてしまった。
その筋書きもニュースショウやクイズショウなど類似した進め方。
多くがポップカルチャーの紹介に費やされる。

まぁ、なんだかんだあったけれど、担当A会場のジャッジ日本組3人とインドネシア先生、インド女性校長を含めた5人での合議。各人の採点の集計を待っている間、インドの先生が質問してくる。
「昨年のプレゼンもこんな感じでした？」
「いいえ、もっと筋だった展開で自分たちの考えを伝えるプレゼンでした。正直、プレゼンの採点をしているのかドラマコンテストの評価をしているのか、途中から頭を悩ませました。と答えると、「私もまったく同じことを考えていました！そうですよね！」

判断基準が同じようでこらからの合議に向かって少しほっとする。
このインドの校長、「でも、今回のテーマでは、テーマがテーマだからどうしてもその方向になるのは仕方がないかもしれないわねぇ。」
初参加でもASEPプレゼンのことを良く理解されている。

ほどなく集計結果が運ばれて5人で高得点順位から問題なく各賞を決めて終了。
後からの吉田先生の言では、さすがインドの先生は数字を探すのが早い、とのこと。
お蔭で集計の遅れで結果を出すのを急いでいたA会場ジャッジは助かりました。

高評はお馴染み立命館大・坂本先生。ゆったりとして心に染み入るような素晴らしい発音の英語で、プレゼン終了の安堵と受賞からお別れパーティーへとの期待感でざわついていた会場がいつの間にか波を打った様に静かになる。

受賞はどんどん進んでゆき、ASEPの旗がセントポールの校長から来年開催の三民家商の校長へ渡ると、一旦別会場で食事のあとは、各国のアトラクションでのお別れパーティー。

オープニングは 10 数年年前三民で開催されたお別れパーティーで度胆を抜かれた三民の服飾専攻の高校生による自らがモデルのファッションショウ。以降17年間、このオープニング出し物の伝統は引き継がれている。

あの時の三民で英語で話しかけると逃げていた三民生。いまでは堂々とプレゼンをするまで、無論校内でも今は平然と対応してくる。これもASEPのお蔭なのは疑いようのない事実。

台湾各校のダンスや歌が続いたあとは、マレーシアやインドネシアの民族舞踊。あれだけの衣装をよく持ってこれた、その上プレゼン以上に力の入ったパフォーマンス。人数を数えると今年も15人。これで先生は引率で航空券の特典(タダらしい)があるという噂。

そして以外に早く進行しトリの日本チームへ。好評の市立東高校のビートボックスのパフォーマンスから奈良育英高校のダンス、そして神戸大附属中等教育学校の歌へと続いていく。歌の番になると日本チームの生徒達が会場の生徒にステージに上がってくるように呼びかけ始めた。

すると最初は躊躇しながら一人二人と手をつなぎ合ってステージに駆け上がる。歌が進むにつれていつしかそれは奔流の大きな流れのようにステージに向かい、だれがどこの国だかわからない、とりあえずアジアの生徒達が楽しさを発散させて、なんだか感動してしまう。

確か、2000年の初めてのASEPのパーティーもこうだった。参加した日本人先生が後で聞くと一様にプレゼン大会に勝るともこの生徒達の躍動感に感動し、必ず来年も生徒を連れてくると心に誓ったと言う。

そして、17年。あのときの得も言われぬ雰囲気が思わずよみがえってしまった。
これは、長く続いたからこそ、今年ののプレゼンも含めて、2000年の原点を見つめ直してみろ、という啓示だろうか。

現在はWYM、ASEPとも参加校の一つの目標となっている福井商業高のASEPいや英語コミュニケーションの黎明期を指導され、現立命館守山高校の今川先生もまったく同じ感情でステージを見ていた、と聞いたのは今夜のバーヨウコウ。

そして、意外に9時前にはすべて終了して、本日のバーヨウコウは少し早めに開店と相成りました。

全てを終えて明日早朝便で帰国の先生、指導の疲れ、でご来店はどうかな？と思っていたら開店早々に部屋のチャイムが鳴りはじめ、いつしか店内は活況。
実は、昨晩にシルビア先生が恒例のビール1ケース差し入れをしてくださっていて、高雄開店期間も残り少ないこのタイミングで、まだ冷蔵庫に在庫多数あり、でどうしようか、と思っていたが杞憂におわりそうなほど皆様ビールをご注文。

さて、坂本先生が来られたので気になっていた大学チームのプレゼンの様子を伺う。
やはり輔英技科大のプレゼンは素晴らしかったらしく、それに影響されてＫ大のプレゼンも向こうを張っていたとのご感想。
これを聞いて今年のASEPについて少し安心。

林先生が入手される予定らしいセントポールが撮影した公式プレゼン動画が届くのがとても楽しみ。

という林先生は昨日の打撲で足を引き摺られてとても痛々しいのだが、ASEP戦場カメラマンの「名誉の負傷」だ、ということにバーヨウコウで相成った。

本日もそういう状況でセントポール校内を歩いていると、どこからともなく女子生徒が寄ってきて、「何かお手伝いすることはありますか？」と声を掛けられたそう。

そういう高校生が普通にいる高校、通常でない見ず知らずの大人に（無論ASEPで校内なので関係者との理解はあるだろうが）手助けの声を掛けられる普通の女子高校生、こんな学校は、こんな高校生は日本にはいくつあるのだろうか。また居るのだろうか。

こんな話題で、私がマスターのバーヨウコウは「よいお年を」のお別れの挨拶で、いつしか明日のパッキングや交流校の観光イベント行事に向けて日付の変わるころには皆様部屋にお帰りで閉店となりました。

ただし、本年はここ何年かよりプレゼン日が早いスケジュールでもう1日高雄に残られる先生が結構いらしゃるのでやはり29日に帰国される同室の林先生がいらしゃるので、林マスターの「バー・○ン」が開店予定とは聞いておりますが。

私は西先生の南山国際グループ同行で朝に高雄を立ち、午後より台北。生徒達が楽しみにしているという小龍包と夜市体験の1泊で29日に桃園空港で別れる予定。
多分、西先生と台北で「プチ・ほんのプチ　バーヨウコウ」。

とりあえず本日は、いつもの締め言葉で閉店させていただきます。

では皆様、「いつかどこかで。バーヨウコウで。」

お読みいただきありがとうございました！

【12/28(水)～29(木)　台北にて】 5日目